

船舶事故調査報告書

平成30年7月25日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 佐藤 雄二（部会長）

委員 田村 兼吉

委員 岡本 満喜子

事故種類	乗組員行方不明
発生日時	不明（平成29年4月29日 14時41分ごろ～5月1日 10時00分ごろの間）
発生場所	不明（東京都鳥島～東京都 <small>そうぶ</small> 嶺岩付近の間）
事故の概要	漁船幸雄丸は、船長が行方不明となった。
事故調査の経過	平成29年5月10日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者からの意見聴取は、本人が行方不明のため、行わなかった。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 幸雄丸、12トン SO2-3828（漁船登録番号）、個人所有 14.68m (Lr) × 3.89m × 1.50m、FRP ディーゼル機関、496.00kW、昭和58年12月22日 第241-13591号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	船長 男性 57歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成6年3月10日 免許証交付日 平成27年6月5日 (平成32年6月4日まで有効)
死傷者等	行方不明 1人（船長）
損傷	船首部外板に擦過傷を伴う亀裂
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 西、風速 約6～7m/s、視界 良好 海象：波高 約1.5m、水温 約21℃
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、平成29年4月25日まぐろ一本釣り漁を行う目的で、静岡県伊東市伊東港を出港した。 船長は、4月29日14時41分ごろ南方諸島付近で操業中、家族から衛星電話に電話が掛かった際、「漁の最中なので、のちに電話を掛ける」旨を応答した。 本船は、30日17時46分ごろ嶺岩南東方沖合450m付近で、船首を南西方向に向け、主機をアイドル状態で漂流して魚釣り中のプレジャーボート（75トン）の右舷船尾付近に接触した後、左旋回をして遠ざかった。

	<p>プレジャーボートの船長は、本船を停船させようと追いかけて接近したところ、甲板上及び操舵室に人影が見当たらなかったため、海上保安庁へその旨を通報し、海上保安庁から本船の船名及び登録番号の確認並びに巡視船が現場に到着するまでの間の監視を依頼された。</p> <p>本船は、その後も左旋回を続け、5月1日10時00分ごろ巡視船乗組員が移乗し、船内を調査して無人であることが確認され、移乗した巡視船乗組員が操船して静岡県下田市下田港に入港した。</p> <p>(付図1 事故発生場所概略図 参照)</p>
その他の事項	<p>本船は、操舵方法を航法モード(目的地へ直行するように自動操舵を行う機能で、目的地に至って機能を止めないと目的地付近で旋回する。)としていた。</p> <p>本船のGPSプロッターには、4月29日の早朝から昼ごろにかけて東京都鳥島付近の航跡が記録され、同日17時00分ごろの船位の記録が北緯30°04.2′東経140°05.4′付近(鳥島の南南西方26.5海里(M)付近、孀婦岩の北西方21.5M付近)となっていたが、その他の船位が連続した航跡として残っていなかった。</p> <p>本船には、船首部の亀裂等のほかに他船と衝突したような痕跡は見られず、魚倉には漁獲物が残っていた。</p> <p>船長は、海上保安庁の航空機及び巡視船により、捜索が続けられたものの、発見されず、5月3日の18時00分ごろに専従捜索が終了となり、行方不明となった。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析	不明 不明 不明 <p>船長は、行方不明となった。</p> <p>本船は、伊東港を出港して南方諸島付近を航行中、4月29日14時41分ごろ船長が家族から掛かった電話に応答した後、5月1日10時00分ごろ巡視船乗組員により無人であることが確認されたことから、この間において、船長が落水したものと考えられる。</p> <p>船長は、航行中に落水したものと考えられるが、落水するに至った状況を明らかにすることはできなかった。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、自動操舵で航行中、船長が落水したことにより発生したものと考えられる。</p>
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 陸岸から遠く離れた漁場に行く場合、僚船などと、互いに異状がないか定期的に確認することが望ましい。 ・ 1人乗りの漁船では、エンジン非常停止装置等を装備することが望ましい。

付図1 事故発生場所概略図

